平成 24 年度　文部科学省委託事業
「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」
［◎学校と地域の総合的な活性化
〇地域における効果的なネットワーク化・人材育成手法の開発］

実 施 報 告 書

平成 25 年 3 月

みたかスクール・コミュニティ・サポートネット

もくじ

実践編

1　事業の題名・・ 3

2　業務の委託期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3　事業の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

4　事業の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(1)事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(2)事業の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(3)事業の具体的内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

(4)事業の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

①地域防災教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
②キャリア教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
③学習支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
④コーディネーターとしてのスキルアップ・ 24

5　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

6　研究から見えてきた課題と今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

資料編

＊＊　総ざらいパワーアップ　スタディサポーターレポート集
＊＊　総ざらいパワーアップ　保護者アンケート
＊＊　七小ＰＵＴボランティアスタッフ　アンケートまとめ
＊＊　サポートネット　事例発表用　スライド

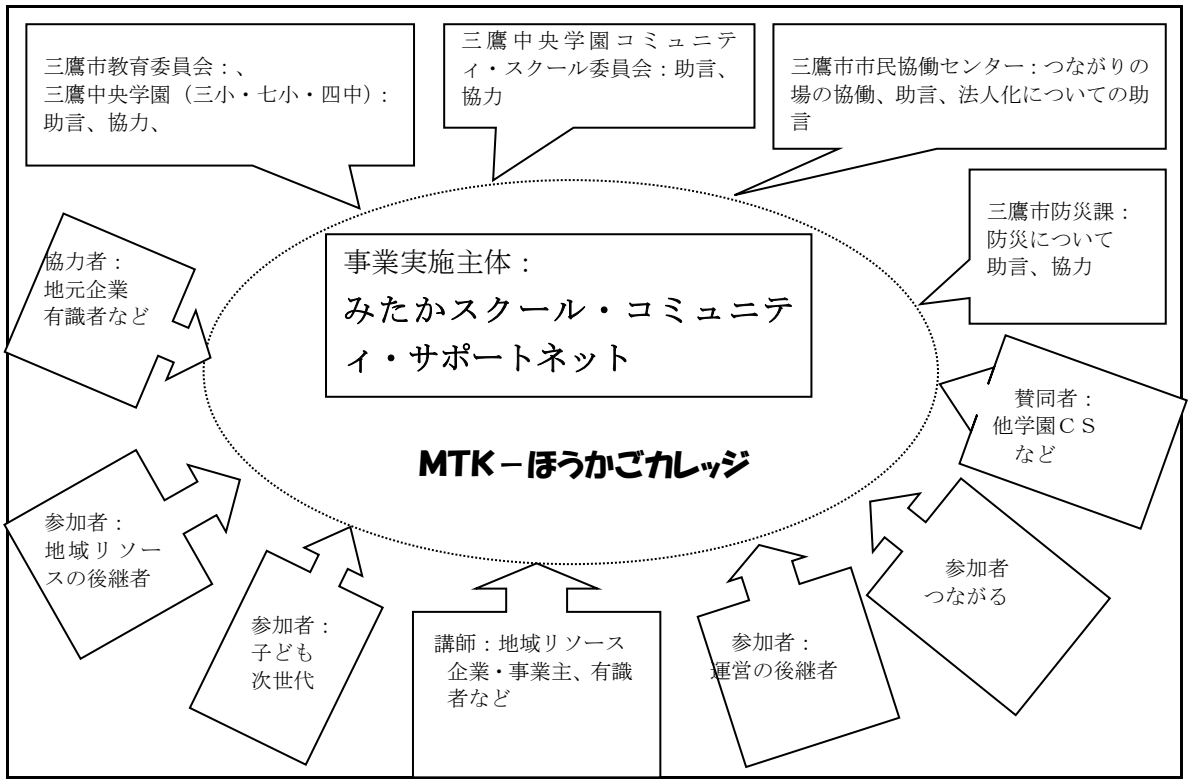
1　事業の題名

平成 24 年度「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」
●地域教育力のプラットフォーム
～Ｍ－みんな、Ｔ－つながる、Ｋ－かがやく、新たなつながりの場の創出に向けて～

2　業務の委託期間

平成 24 年 7 月 3 日(委託を受けた日)～平成 25 年 3 月 15 日

3　事業の実施体制



4　事業の実施状況

(1)事業概要

昨年度受託した同委託事業「三鷹中央学園における、学校を核とした第四中学校区の地域活性化プロジェクト『みたかちゅうおうプロジェクト』」から得た成果や課題をもとにさらに発展させ、子どもたちの生きる力を育成するための講座（プログラム）の提供をとおして、子どもたちに関わる地域の大人たちにとっても学びの場となり、新たなつながりが生まれ、子どもたちも大人たちも輝ける地域教育力のプラットフォームづくりをめざします。

また、そういったプログラムを提供するだけではなく、そこに集う人々や地域リソースをつなぐコーディネーターとしての機能をもつ集団としての実践をとおして、継続可能な学校支援の在り方を模索し、新たな学校支援のモデルとなる実証研究を行います。

(2)事業の背景

三鷹市は、市内の 15 小学校、7 中学校すべてがコミュニティ・スクールの指定を受け、中学校区ごとに「学園」を形成し、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を行っています。それぞれの学園にはコミュニティ・スクール委員会が置かれ、地域住民が学校運営に参画し組織的に学校を支援する体制がとられています。私たち「みたかスクール・コミュニティ・サポートネット」が支援している「三鷹中央学園」も、第三小学校、第七小学校、第四中学校の 2 小学校 1 中学校が平成 21 年 4 月に学園として開園しました。

保護者、地域の声を反映しよりよい学園、学校となるために三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会が、協議機関としてさまざまな取り組みを推進してきましたが、取り組みの実動部隊となる事務局機能の必要性が生じ、平成 23 年度 4 月に本団体を設立しました。また、同年度 10 月には文部科学省委託事業である本事業を受託、「地域防災」「キャリア教育」「学習支援」を柱に地域教育力の向上をめざし、

- 「3.11 地域防災を考える日 in みたかちゅうおう」の実施
- 「もしものときのハンドブック in みたかちゅうおう」の作成
- 「授業づくりのお手伝いセカンドティーチャー‘ s ガイド」の作成
- 「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」の実施

を実践しました。この事業をとおして、私たち自身が多くを学び、気づき、多くの成果を得、また課題も残りました。

地域防災をとおしての気づき
① 防災に対する地域住民の関心の高さ
② その一方でのつながりの希薄さ
③ 多くの人々がつながりを求めている、ということ
④ 私たちにはまだまだ学ぶべきことが多くある、ということ

キャリア教育をとおしての気づき
① 地元企業や事業主、商店主は活性化したい、と考えていること
② しかし、日々の業務に追われ、実現できていないこと
③ 地域には眠れるリソースがまだまだある、ということ
④ 学校教育にそういったリソースを活用するには、コーディネーターの存在が必要不可欠であること
⑤ コーディネーターがつないでくれることを学校側も地域側も待望していること

学習支援をとおしての気づき
① 学校でも塾でもない、地域が支援する補習学習の場について保護者の理解を得ることができる、ということ
② 自分のペースで学習できる場を子どもたちが望んでいた、ということ
③ 地域主催の補習学習の場が教員志望の学生にとって大変有益な研修の場になりえる、ということ
④ 地域の人間にも、子どもたちの学習を支援できる、ということ

など多くの気づきを得ました。

昨年度、私たちが学んだようにもっと多くの方に学び、気づく場を提供したい、またそこで新たに人と人とが出会い、つながり、さらに地域の輪を広げて子どもたちの学びの場を支援するネットワークを構築したいと考えました。地域の方々も、つながっていくことを切望しています。

三鷹市は市民活動への参加意識が高く、ボランティア活動などが活発です。教育の分野だけでなく、福祉、経済の分野でも地域のつながり、絆を求める声が多く、三鷹市市民協働センターや三鷹ネットワーク大学などでもつながりを創生するためのシンポジウムが多く開催されています。そこであがる声として「つながる場はあってもつなげる人、あるいはつなげる組織＝コーディネーターがいなければつながりは作れない」ということが多く聞かれます。今回の取り組みをとおして、本団体がそこを担っていくことが求められていると感じました。

一方、この活動が持続可能なものとなるためのモデル事業として大変重要な要素に「有

償のコーディネーター機能の構築」があげられます。23 年度事業の中で、自分たちの活動の対価として「有償」という考え方を取り入れました。本団体のメンバーの全員が日頃ＰＴＡ活動や学習ボランティアなど無償のボランティアで学校支援をしています。この事業に限っては有償になる、ということでスタート時は大変な戸惑いがありましたが、日ごろから子どもたちに対して責任感と使命感を強くもってボランティアをしているだけに、有償になることでさらに責任をもち、達成感も得ることができました。

学校支援活動も、子どもに対する熱意や思いに甘えてボランティアに頼る、というだけだと安定性や継続性がありません。共働き世帯の増加に伴い、放課後の子どもの居場所の重要性が年々高まっているにも関わらず、ＰＴＡや地域子どもクラブに積極的にかかわってくれる保護者は減っており、運営の後継者不足は、市内各校の深刻な課題になっています。

そういった学校の教育活動や放課後活動の支援に「仕事」として関わることで、地域に雇用が生まれ、これまで地域外に働きに出ていた保護者が担い手として関われるようになったり、ＰＴＡや学校支援を無償のボランティアを一人何役もこなしていた保護者にとっても負担感や不公平感を感じることなく仕事として関われるようになったり、という「新しい働き方のスタイル」のモデルとして全国に提案できます。

資金面に目を向けてみると、私立学校への受験や学習塾、習い事などへは惜しみなく教育費をかける家庭も多い一方、市民の中には「公共サービスは無料」という根強い意識があり、特に子どもの体験活動や遊びのプログラムなどの放課後活動への「受益者負担」という考え方がなかなか受け入れられない実情があります。だからボランティアに頼らざるを得ない、という悪循環も生まれています。

教育行政関係者や学校関係者などからは、本団体が法人化することに期待の声があるものの、そういったなかで運営資金をどう確保するのか、という懸念から、法人化については時間をかけて十分な検討をしなければなりませんが、2 年目となる本年度は、コミュニティ・スクールと強く連携しながら、学校支援組織のフロントランナーという意識をもって実証研究していきます。

(3)事業の具体的内容

Ｍ－みんな　（大人も子どもも）
Ｔ－つながる（地域と学ぶ、地域に学ぶ、地域で学ぶ）
Ｋ－かがやく（教えることでの気づき、教わることでの気づき）
「ＭＴＫ－ほうかごカレッジ」

★子どもたちの学力定着を地域で支える場
★「学校では教わらないけど大切なこと」を学びあう場

★講座をとおして、あらたなつながりが生まれる場

⇒地域の教育力が集い、高めあうプラットフォームの構築

⇒学校発信のコミュニティ（スクール・コミュニティ）の創生

「ＭＴＫ－ほうかごカレッジ」の講座のテーマと展開と「仕掛け」

① 地域防災教育；昨年度「3.11 地域防災を考える日 in みたかちゅうおう」を実施、400 名近い来場者があり、多くの方と防災についての気づきの場を共有できました。今年度は、その関わりの輪を中心に、防災についての連続講座や勉強会などを企画しさらに輪を広げます。

　また、本団体の代表が、三鷹市地域防災計画の策定に向けての市民会議や三鷹市総合防災訓練連雀地区訓練および駅前周辺地区訓練など既存の防災組織等に関わることで連携を深め、小中学校を核とした、継続可能な防災への取り組みについての基盤づくりを進めます。

当初提出した計画を実践するための打ち合わせを重ねる中で、共同研究者の一人でもあり私たちの活動の拠点となる三鷹中央学園三鷹市立第四中学校勝野能光校長の理解と協力を得て、私たちが学んだことをまとめて、中学生の防災教育に何らかの形で反映させたい、との話をいただき、計画を以下のように変更した。

（以下、変更点）

学校は、防災の拠点であり、学校教育の中でも、防災教育の必要性が高まっている。子どもたちに、自分の命を守り、身近な人を守るためにはどうしたらよいか、を考える機会をもってもらうため、地域の私たちの目線で、この地域ならではの防災について学べる「テキスト」を作成することとした。

三鷹中央学園での防災教育に活用してもらうよう働きかけたところ、第四中学校での授業に取り入れてもらえる予定。テキストとして印刷、全生徒および新入生、教職員ならびに三鷹中央学園関係者に配布することで、地域に根差した防災の取組みが実践でき、さらに「地域防災」をテーマに関係団体の連携を強化し、人材を育成する機会を作ることができる。

（８月１６日付変更届より）

② キャリア教育；地域内外の人財を発掘し、スポーツ、ものづくり、科学など各分野から「授業では教わらないけど、でも大切なこと」を趣旨として、子どもたちの生きる力の育成に必要と思われる内容の講座を企画、提供します。

　ＷＥＢなどを使い、地域内外に発信、情報提供し、つながりの輪を広げ、学校教育、家庭教育などに活用してもらい、各地域に広めることで学校教育支援のコーディネート法を紹介し、基盤のすそ野を広げていきます。

当初の計画では、防災を含めた多様な講座の企画を予定していたが、防災がテキストの作成に変更になったのと同時に、サポートネットのメンバーがコーディネーターのスキルをあげるための研修や授業コーディネートの実践などを重点的に研究するためには、講座の企画運営と並行して行うのは、メンバーの負担が大きいため、講座のあり方を再検討し、以下のように計画を変更した。

（以下、変更点）

ファイリングシステムについては、23 年度同委託事業の中で行った「ティーチャーズガイド」が未完成なことと、今年度、団体のコーディネータースキルを上げることを活動の一つにしているが、実際に、学校授業へのコーディネート業務が増え、地域人材を登用し授業につなげることが多くなった。人材ファイルを作成することで、今後、より多くの人材活用ができ、子どもたちにより豊かな体験を提供できるとともに、継続的に授業への活用が図れるようになる。　（８月１６日付変更届）

③ 学習支援；23 年度事業で実施した「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」を、教員志望学生の有益なインターンシップの場として活用してもらえることが実証できたため、今年度はさらに受け皿を整備し、近隣の教員養成系大学（東京学芸大等）や教師力養成講座を主催している三鷹ネットワーク大学にアプローチし、小学校卒業を控えた小学６年生に向けての算数総復習の補習学習を、学生が運営の主体となる仕組みづくりをコーディネートします。

また、第七小学校の全学年で昨年度授業時間内の活動の一環として取り組んだ「パワーアップタイム（ＰＵＴ）：算数の補習学習」について、今年度は放課後の時間に第七小学校教員と共同研究する形で、算数の学力定着に取り組みます。さらに、昨年度七小ＰＵＴを推進してきた教務主幹が、この４月より第三小学校に転入したことで、第三小学校でもＰＵＴを導入してほしいという保護者の声があり、導入の可能性、保護者の理解、教員の理解やバックアップ体制などがどこまで実現可能なのか、基盤づくりに取り組みます。

ＭＴＫ－ほうかごカレッジの運営方法

・講座料金の一部受益者負担；放課後活動の取り組みモデルとして、また今後の運営資金の確保の一方策として導入してみます。イメージモデルとしては三鷹市商工会が毎年発行している「むらさき商品券」のような地域通貨（金券）。

・会場は学校施設を中心に；地域の教育力向上のための取り組みは、すべて子どもたちのため、というアピールも含めて会場は学校施設（第四中学校生涯学習室、第三小

学校第七小学校学習室等）を中心に、土日も含めた放課後の時間帯に行います。

検証の方法（アンケート）

・ほうかごカレッジ講座参加者に対してのアンケート⇒開催の都度
・講師、有償ボランティア等地域協力者へのアンケート⇒開催の都度
・学習支援に関わった学生に対してのアンケート⇒事業終了後
・本団体メンバーに対してのアンケート⇒全事業終了後

アンケートを通じて

① 学びの場の必要性や満足感
② 学びの場がつながりの場として有益かどうか、またつながりの場の必要性と課題
③ つなげる人またはつなげる組織の必要性、その成果と課題
④ ボランティアの有償化についての可能性と今後の課題

等を検証します。

また、事業に取り組みながら、本団体の法人化を視野に入れた活動（法人化についての学習会、支援者への働きかけ等）を行い、事業終了後、アンケート等を基に検討し、平成25年3月を目途に法人化についての結論を出す予定です。

（4）事業の実際

①地域防災教育

【防災テキスト「カンガエル地域防災」の作成】

目的：

中学生（四中生）を、災害時の地域防災の担い手として育成するための防災教育プログラムを開発、また、それを指導する地域の大人の育成プログラムを作成。

地域が本当に求める中学生の力を見出し、地域防災を担う当事者（おとな）と中学生とが本当に協働できる仕組みづくりを実証研究する。

経過：

年・月	流　　れ	備　　考
平成24年８月	篠原秀和氏と懇談。防災テキストの作成について構想を練り始める。 三鷹市防災課大倉課長と懇談、アドバイスをもらう。	篠原氏は、三鷹の森学園ＣＳ委員会副会長で、五小避難所運営連絡会メンバーであり、三鷹市消防団第四分団長。学校を拠点とする防災についてのエキスパートで、昨年度「3.11 地域防災を考える日」のイベントで講師を務めた。

平成 24 年　９月	テキスト原稿を作成開始	当初、篠原氏に原稿を作成依頼することも検討したが､2 年間のまとめの意味もあり、自分たちで作成することにした。 （パワーポイント原稿）
平成 24 年１０月 から 平成 25 年　２月 まで	原稿内容の検討、加筆修正 指導者用手引き作成	原稿を作成するにあたって、ミーティングを行い、 ①どんな体裁にするか ②何を主軸にするか ③入れておきたい内容 などを話し合った。 原稿を作成しては、適宜ミーティングにて内容を精査し、修正を加える作業を繰り返した。 同時に、誰でもが教えられるように、指導者用手引きを作成した。
平成 24 年１０月 から 平成 25 年 2 月	篠原氏と懇談、テキスト原稿の進捗状況報告、内容についてアドバイスをもらう 三鷹市防災課大倉課長と懇談、アドバイスをもらう。	
平成 25 年　2 月	入稿、校正	印刷：(株)文伸（三鷹市）
平成 25 年　3 月	「カンガエル地域防災」 完成 3.11 第四中学校 3 年生に向けて、防災授業実施、 テキスト配布	Ａ５版横型　全３２ページ

計画の変更：

事業計画申請当初の計画では、

・地域の教育力が集い、高めあうプラットフォームの構築
・学校発信のコミュニティ（スクール・コミュニティ）の創生
を目的とすることから、

「昨年度「3.11 地域防災を考える日 in みたかちゅうおう」を実施、400 名近い来場者があり､多くの方と防災についての気づきの場を共有できた。その関わりの輪を中心に、防災についての連続講座や勉強会などを企画し、そこに集った人たちを中心にして 24 年度版地域防災イベント企画開催チームを結成し、地域住民による、地域のための防災イベントを企画・運営・実施に向けた話し合いの場をサポートネットがコーディネートして実現させる。」
としていました。

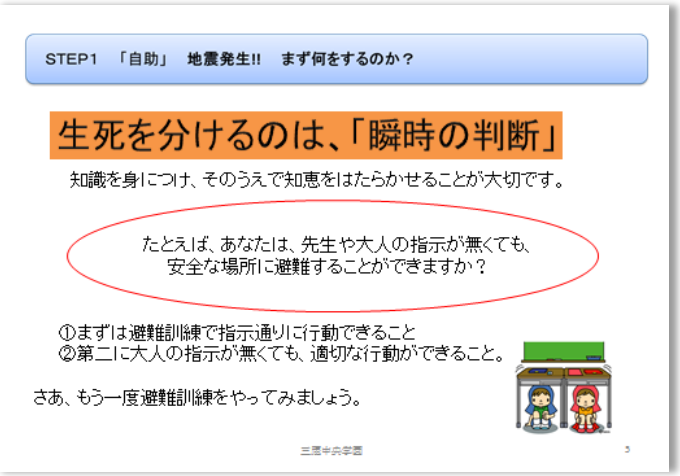
篠原秀和氏の講演
（昨年の「3.11 地域防災を考える」より）

しかし、平成 23 年度から２年間、防災について自分たちが学んできたことを形にするための検討をするなかで、三鷹市井の頭在住で、三鷹の森ＣＳ委員会副会長、学校防災を研

究されている篠原秀和氏や、三鷹市防災課大倉誠課長、三鷹市市民協働センター高橋由紀子氏らのアドバイス、三鷹中央学園三鷹市立第四中学校勝野能光校長、同校教務主幹矢島昌廣教諭との協議を、成果物として実らせる形で、地域防災テキスト「カンガエル地域防災」および同指導者用手引きを作成すことになり、事業計画の変更をしました。

当初計画していた防災講話や勉強会、という形ではなく「テキスト」にしたこと、テーマを「自助・共助」に絞り込んだこと、印刷物としての体裁についてなどの検討段階で適切なアドバイスをもらえたこと、学校への提案に賛同してもらえただけでなく、教員としての視点をテキストに取り入れることができたことは大きな成果でした。

←地域防災テキスト
「カンガエル地域防災」より抜粋

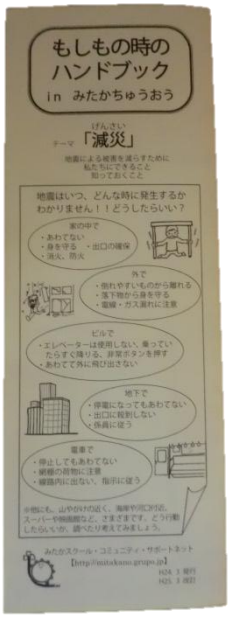


【もしものときのハンドブック in みたかちゅうおうの更新】

昨年度作成したものを更新する形で、「もしものときのハンドブック in みたかちゅうおう平成 25 年度版」を作成、三鷹中央学園の全児童生徒に

①全児童生徒がランドセルや通学バッグに携帯する、
②各家庭で目につきやすい場所に貼っておく、

という 2 種類の使い方をしてもらうため、児童生徒数プラス家庭数で配布しました。



もしものときのハンドブック（平成 25 年度版）Ａ３四つ折り→

【防災テキストを使用した防災授業へ】

今回の防災テキスト作成にあたっては、三鷹中央学園三鷹市立第四中学校の勝野能光校長との対話が大きな影響を与えてくれました。

第四中学校の校長でもあり、三鷹中央学園の学園長でもある勝野先生は、心の教育を大切にされる気さくな人柄の校長先生で、防災教育にも力を入れています。昨年度からの私たちの防災の取組みに非常に関心が強く、また、三鷹市が毎年行っている総合防災訓練に中学生をボランティアとして参加させることを推進しています。

私たちが学んだことを是非中学生に伝えてほしい、との校長先生との会話から大人同士の講話や勉強会でなく、次世代の防災の担い手でもある中学生に直接伝えるにはどうしたらいいか、という視点で再検討することになったのです。

当初の計画段階から相談に乗ってもらっていた篠原氏にも再度相談しました。そうしたところ、「テキストを作ってみてはどうか？」という提案をもらいました。篠原氏はライフセーバーの活動もしており、そのテキストを見せてくれました。時系列に大切なポイントを写真や図でわかりやすくコンパクトにまとめられ、携帯できるそのテキストを参考に、「自分たちの伝えたいことをまとめてみよう」ということになり、作成を始めました。

三鷹市防災課大倉誠課長にも、ポイントのまとめ方についてアドバイスをもらいました。

①当時策定が進められていた「三鷹市防災計画」の中でも言われている「自助・共助・公助」の考え方を取り入れること
②いわゆる一般的な防災マニュアルではなく、地域に根差した、地域ならでは防災テキストであること
③子どもたちに対する私たちの思いが込められたものになること

などのアドバイスをいただきました。

原稿を作成しては、何度もミーティングを行い、Ａ５版 28 ページの「カンガエル地域防災」が完成しました。また、誰でもが指導できるよう、指導者用手引きもあわせて作成しました。手引きを作成するにあたっては、第四中学校の矢島昌廣教務主幹が協力してくれ、

教員としての視点での意見をいただき、文言の修正やレイアウト変更などに力を貸してくださいました。

勝野学園長は、次年度の学園の教育計画の中に、サポートネットとの連携による防災教育を推進していく、ということを明文化してくださり、次年度の学校教育の中に、私たちの作成した防災テキストが活かされていくことになりました。

そのキックオフとも言える防災授業を、東日本大震災が発生した 3 月 11 日 14 時 46 分にあわせ、平成 25 年 3 月 11 日（月）6 時間目に、四中 3 年生を対象に行いました。東京都作成の防災ＤＶＤを観たあと、14 時 46 分に全員で黙とう、三鷹市防災課大倉誠課長の防災講話、そして 3 年生全員に「カンガエル地域防災」を配布しました。3 年生にはテキストを使用した授業はできませんでしたが、これから後輩たちがこのテキストを使って、防災を学んでいくこと、卒業しても地域の人間として防災のことを私たちと一緒に考えてほしいことなどを伝えました。

3 月 11 日防災教室　大倉課長の講話

3 月 11 日防災教室　　テキスト説明

中学校の授業に取り入れていただけたことは、この上ない成果であると思います。今後は、授業の実践をとおして、自分の命は自分で守る、自分が助かった次に自分にできることを考える、という自助・共助の考え方を、次世代を担う子どもたちに伝えていくために、さらに地域人材と学校教育をつないでいきたいと思います。

②キャリア教育

【講座の開催】

「学校では教わらないけど、大切なこと」をテーマにさまざまなジャンルの講座を企画し、講師や参加者の輪を広げることで、教育力を高めていく仕掛けづくりをする目的で以下のような講座を開催しました。

講座名（協力企業・団体）	開催日	会場	参加人数	内　　容
ツボミスクール （(株)ワコール）	９／５ （水）	四中	保護者３７人	中１女子保健体育出前授業にあわせて開催 三小・七小保護者を中心に参加
ホップ・ステップ・ジャンプ （(株)ベネッセ） 講師：松本猛氏	１２／１５ （土）	三小	保護者２１人	小学生保護者向け 中学生保護者向け に２回開催
イカロスの誕生と航海 （ＪＡＸＡ） 講師：森治氏	１／２６ （土）	三小	小学生２５人 中学生　６人 大人　２７人	ＮＰＯ法人きらめきライフ多摩との共催
ＣＳセミナー （三鷹中央学園 CS 委員会）	３／１５ （金）	三小	３１人	市内７ＣＳ委員会から参加 市教委・教員・次年度ＣＳ委員など

ツボミスクール

開催日：　平成２４年９月５日（水）
会　場：　第四中学校　生涯学習室
内　容：　(株)ワコールによる保護者向け講座

思春期の女の子の体型の変化、体にあった下着の選び方などを、(株)ワコール研究所の研究データに基づいてわかりやすくお話してもらいました。この講座の前段では、1，2 時間目に第四中学校 1 年女子生徒の保健体育の授業として、中学生向けのツボミスクールを行いました。

三鷹中央学園の三校の保護者に声かけしたところ、会場は中学校だったが、中学生の保護者よりもむしろ、小学校低学年～中学年の保護者の参加が目立ちました。

ホップ☆ステップ☆ジャンプ　意欲・自信・学力

開催日：　平成２４年１２月１５日（土）
会　場：　第三小学校　視聴覚室
内　容：　副題～子どもと一緒に階段を上ろう
　　伸びる子どものために親ができること～

受験情報、進学情報が氾濫する中、周囲の根拠のないうわさ話に振り回されず、我が子としっかりと向き合うためにはどうしたらいいのか、子どもの力を信じ、伸ばすために親ができることは何なのかを、チャレンジや進研ゼミなど全国に多くの会員を持つベネッセのデータにもとづくお話から学ぶ講座。

講師を依頼した(株)ベネッセホールディングスの松本猛氏は、長年ベネッセで小中高校生の通信講座などに携わってきた方で、三鷹在住。お子さんは三鷹市立第五中学校の 3 年生で、現在、鷹南学園コミュニティ・スクール委員を務めています。

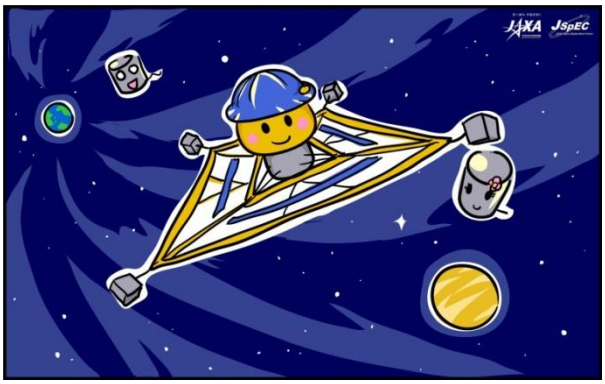
今回は、三鷹中央学園の保護者だけでなく、三鷹市が運営する地域ＳＮＳポキネットでも呼びかけたところ、他地区からの参加もありました。

イカロスの誕生と航海

開催日：　平成２５年１月２６日（土）
会　場：　第三小学校　視聴覚室
内　容：　小型ソーラー電力セイル実証機「イカロス」が誕生するまでの苦労や、その構造、宇宙でのミッション、ものづくりの面白さなど知る講座

今回の企画は、ＮＰＯ法人きらめきライフ多摩よりの申し出があり、共同企画となりました。きらめきライフ多摩会員に、森治先生の講演をやりたい、という会員がいて森先生とつないでくださり、両者で打ち合わせをしながらサポートネットが企画運営を進めていく、というやり方で行いました。学校をフィールドにしている我々の機動力、企画運営力と、ＮＰＯの熱意が合致して実施できました。

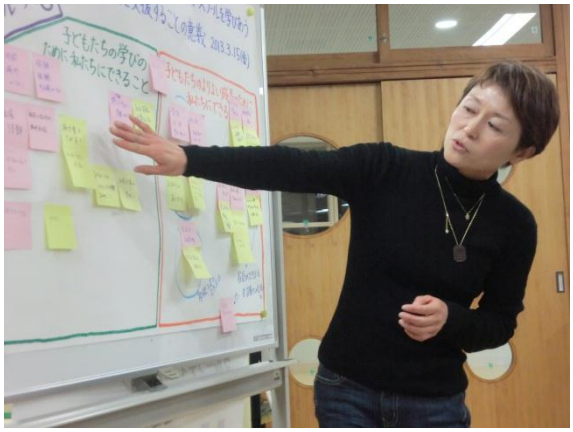
本物の話が聴けるとあって、宇宙ファン、理科ファンが集まってくれました。そのおかげで、講師も話に熱が入り、講師も参加者も大満足な講座となりました。理科教員も参加してくれて、授業のときにクラスの子どもたちに話をしてくれたりしたそうです。



他団体との共催、というやり方も、役割の分担などを明確にし、連絡や報告をしっかり行うことで、そのノウハウを身につけました。

ＣＳセミナー　地域発！三鷹版コミュニティ・スクールを学びあう

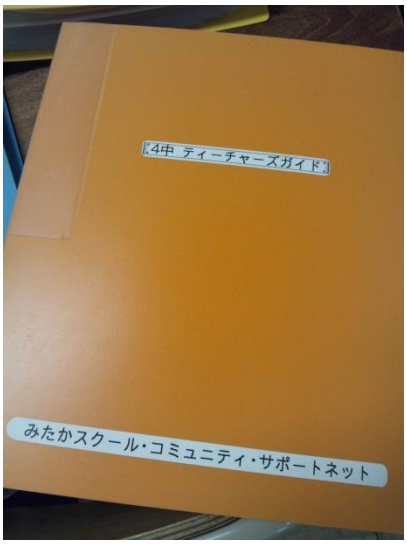
開催日：　平成２５年３月１５日（金）
会　場：　第三小学校　会議室／図書室
内　容：　副題「地域が学校を支援することの意義」
～地域とともにある学校づくりを担っていくために、
ＣＳ委員会の役割を考える～
第一部：三鷹の森学園ＣＳ委員会会長　石井章夫氏による講演
第二部：参加者全員でミニ熟議



今回は、三鷹市内７学園のコミュニティ・スクール委員会（約１５０名）、ＰＴＡ連合会、学園内の教員、ＰＴＡ、市教委などに声をかけ、７学園すべてのＣＳ委員会からの参加がありました。ゲストスピーカーのお話も、講演というよりは問題提起にとどめてもらい、学びあいの場となるよう、熟議もあえて結論を導き出さないよう進行しました。

【ティーチャーズガイドの作成】

昨年度、未完成で終わったものをすべてファイリングしました。また、第七小学校生活指導主幹の坂井由利子教諭にアドバイスをもらい、教科ごとのインデックスで先生にとっての調べやすさ、手にとりやすさを考えました。この原本となるものをサポートネット用に、必要情報をダイジェスト版にしたものを三校用にファイルを作成し、次年度４月に、各校の副校長と相談し、職員室に置いて活用してもらいます。



また、ＷＥＢ版についても、サポートネットのＨＰ内にティーチャーズガイドのページを作成、認証番号を入力すると内部検索ができるようにしました。

これらのデータは、実際に学園内で授業に取り入れているものや、東京都教育支援フォーラムなどで、私たちが実際に企業側の話を聞いて授業に取り入れやすいものを選んで提供しています。

③学習支援

【七小ＰＵＴ（パワーアップタイム）】

実施回数　２６回（３，４年１３回、５，６年１３回）
対象学年　小学３年～６年
参加児童　３６０名（のべ人数）
参加ボランティア数　３２７名（のべ人数）
実施方法　各学年２学級の中で、算数授業にてレディネステストを行い、理解が遅れていると思われる各クラス３～４名の児童に担任の先生から勧めてもらい、保護者の同意を得てＰＵＴに自主参加。
毎回、先生が課題（ドリル、プリント）を指定、その子のつまずいているポイントをメモで伝達、ボランティアは教える、というよりは横に寄り添い、励まし、子どもたちが自らの力で取り組めるよう見守りをします。（約４５分）。
その日どこまでをどんなふうにやったか、理解がどうだったか、などをボランティアがメモし、先生に伝達します。

七小ＰＵＴの様子：左上下　先生が様子を見に来てくれた。　ほぼマンツーマンで見守り

昨年度から第七小学校で始まった放課後の補習教室を、より効果的なものにするために、七小教員との共同研究という形で取り組みました。第七小学校研究推進部の椎名由美子教諭に学校側の事務局となってもらい、サポートネット側の事務局と連携をとりながら進めました。

開始当初は、ボランティア側に「勉強を教えなければならないのか」という戸惑いや、教員との考え方の行き違いなどがありましたが、実践しながら、教員側の役割とボランティア側の役割を明確にし、学校での子どもたちの様子を先生が、補習教室での様子をボランティアが、伝えあえるような方法を工夫し、「学校と地域がともに子どもの課題を共有し、子どもたちの学びを支えていく」といういい形が作れたのではないか、と思います。

＜教　員＞

●子どもたちの課題（ドリル・プリント）を指示する。

●どこでつまずいているかを連絡する。

●子どもたちへＰＵＴに行くよう促す。

●ボランティアからの連絡に目をとおし確認する。

＜ボランティア＞

●先生からの指示に従い、担当の子どもに課題をやらせる。

●集中を切らさないよう、促す、励ます。

●できたら大いにほめる。

●ＰＵＴの様子を先生に伝える。

最終日には、教員とボランティアとの懇談会を行い、すべての教員が出席し、ＰＵＴに参加した児童の授業中の変容（集中できるようになった、自信をもつようになった、計算をあきらめなくなった等）についての報告と、ボランティアが寄り添い、励まし、ほめてあげる形のこのＰＵＴが、子どもたちにとって算数の基礎学力定着以上の効果がある、ということを話してくれました。

そこには、学習のつまずきのある子どもの多くが、家庭学習習慣が身についていない、という課題を抱えている場合が多い、という背景があります。宿題を家でやる、それを親が見てあげる、できていたらほめて、できていなければ教えてあげる、などの経験がとぼしく、学習のつまずきを放置したままにしている場合が多く見受けられます。本来お母さんがしてあげる役割の一端をボランティアが支えてくれることで、子どもたちは学習に対する理解を深め、自信を取り戻すことができたのではないでしょうか。

ボランティアも自分たちの有用感を深め、補習教室の必要性を感じています。終了にあたって、アンケートで意見・感想をもらったところ、子どもたちの学習のつまずきに対して、学校と連携して自分たちが果たしている役割の重要性を感じた意見が多く寄せられました。

【数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ】

実施回数　２７回（三小１３回、七小１４回）
※インフルエンザによる学級閉鎖のため、三小で１回中止
対象学年　第三小学校、第七小学校の６年生（自由参加）
参加児童　三小２０５名、七小９２名　計２９７名（のべ人数）
参加ボランティア数　スタディサポーター１１８名（のべ人数）
マルつけスタッフ２０名（のべ人数）
実施方法　参加希望児童には、ワーク（中１へのステップ）、専用ノート代として３５０円を徴収。
小学校使用教科書に準じたテキスト、プリント類を使用し、授業内容に沿った基礎学習を行う。初回、レディネステストを行い、個人の課題に応じてさかのぼり学習を行います。クリアできれば発展問題もやりますが、小学校算数の範囲に限ります。
大学生のスタディサポーター、サポートネットスタッフによるマルつけ、担当事務局と仕事を分けました。
毎回、終了後はサポートネット事務局とスタディサポーターによるミーティングを行い、児童一人一人の進度、課題などを共有し、次回の進め方、与えるプリントの検討などを行いました。

数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップの様子：七小ではほぼ個別指導ができました。

「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」は、昨年度ボランティアとして関わってくれた大学生スタッフから大変評価が高く、子どもたちのいい変容も見られたので今年度も同じような形で取り組みました。

＊＊ごあいさつ＊＊

「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」

にご参加いただきありがとうございます。この取り組みは、文部科学省の委託事業として、行っています。三鷹中央学園の小学校６年生のみなさんが、自信と希望と勇気をもって中学校へ進学してほしい、という願いから算数の総復習をサポートするのが目的です。
そこで、主催のサポートネットから参加者のみなさんにお願いが2つあります。

お願いの1つは、
『周りの人と比べない』ということです。
パワーアップが進んでいくと、だんだん一人一人進度（進み具合）に違いがでてきます。すぐにクリアできる子もいれば、そうでない子もいるからです。でも、このパワーアップはできる速さを競うものではありません。小学校で勉強した内容を確実に自分のものにするための時間です。

もう1つのお願いは、
『自信をもって中学校へ！』ということです。
中学になると「算数」が「数学」と教科名も変わり、内容も難しくなっていきます。でも、小学校での算数をしっかり自分のものにしていれば恐れることはありません。このパワーアップで小学校算数をしっかり自分のものにしてください。
私たちサポートネットも、みなさんのがんばりを全力で応援します。

みたかスクール・コミュニティ・サポートネット

参加児童へのあいさつ文。この取組みに賭ける私たちの思いを伝えます。

今回の取組みで、昨年度と変えたのは、「受益者負担」にした、と言う点です。

ワーク代とノート代の実費で、３５０円という参加費は、通常の学習塾の月謝などを考えると、あまりにも少額ですが、今後継続可能な取組みにするためには、ある程度受益者（参加者）に負担してもらうことが必要になってきます。

また、今年度は、大学生ボランティア募集のチラシを作成し、（下のチラシ）

子どもたちの補習学習へ
あなたの力を貸してください！
～スタディサポーターを募集しています～

「小学校の算数は小学校のうちに身に着けて、自信をもって中学校へ進学してほしい」という思いから、地域のオバチャンたちが立ち上がりました！卒業間近の小学６年生を対象にした、小学校算数の総復習のための補習学習教室「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」を開催いたします。塾では味わえない、子どもたち一人一人のペースややる気を大切にした地域のオバチャンならではの「寄り添い」や「励まし」をモットーに、子どもたち自身が「あきらめないでやれば必ずできるようになるんだ」と実感できるような教室を目指しています。

そこで、将来、先生になることを目指して勉強中の皆さんの力が必要なのです。教育実習や塾のアルバイトでは決して経験することのできない、「地域が運営する補習学習教室」でのインターンシップを経験できます。

「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」

◆日時　平成 25 年 1 月中旬から 3 月初旬
週 4 日（曜日は未定。昨年度は火、水、木、金実施）の 15 時～17 時
◆場所　三鷹中央学園三鷹市立第三小学校、同第七小学校学習室にて
◆対象　同校の小学 6 年生（参加は任意）
◆内容　小学校算数の総復習学習への指導（個別）
◆その他　交通費程度の謝礼あり

*この事業は、平成 24 年度文部科学省の委託事業の一環です。そのため、研究成果の報告として、関わってくださった方にはA4で1～2枚程度のレポートの提出をお願いしています。

全回関われなくてもかまいません。やってみたい！と思う方はお気軽に下記までお問い合わせください。今年度の日程が決まり次第、事前打ち合わせをさせていただきます。

お問い合わせ先：
みたかスクール・コミュニティ・サポートネット
（平成 24 年度文部科学省委託事業受託）
http://mitakano.grupo.jp/
携帯：090-8342-5275
メール：yotsuyan@parkcity.ne.jp
共同代表　四柳千夏子（よつやなぎちかこ）・師橋千晴（もろはしちはる）

学力格差を作らず、学ぶことをあきらめない子どもの育成や、子どもたちが自分自身を認め、自己肯定感を感じて成長することは、私たち大人の責任です。それは、学校の先生だけの責任でも、保護者だけの責任でもありません。たくさんの大人の力を、子どもたちのためにつなげているのが「みたかスクール・コミュニティ・サポートネット」です。コミュニティ・スクールを基盤とした小-中一貫教育の三鷹から、子どもたちを育成する大人たちのつながりを発信してまいります。

・知人を通じて東京学芸大学に置いてもらう
・みたかネットワーク大学教師養成講座の修了式にお邪魔させてもらい呼びかける

などの広報活動をしました。結果、両者から１名ずつの参加表明があり、さらにその学生が友人を連れてくる、など口コミで輪が広がっていきました。また、教員志望学生以外にも、偶然知り合いになった地域コミュニティを専攻している学生、ＮＰＯ活動などに積極的に関わっている学生などにも声をかけ参加してもらいました。最終的に１６名の学生ボランティア（スタディサポーター）が集まってくれました。

昨年度同様、スタディサポーターには、子どもたちの勉強をみてもらうだけでなく、毎回終了後にミーティングを行い、参加児童一人一人の振り返り、つまずきのポイントの共有、次回の課題の与え方、などを話し合ってもらい、できるだけ運営そのものに関わってもらえるような方法を工夫しました。このミーティングが、教員を志望している学生にとっては大変いい研修の場になっているようで、レポートにも意見を寄せてくれています。
（スタディサポーターのレポートについては、資料編に掲載しています。）

また、全日程終了後、児童にアンケートをとりました。集計は以下のとおりです。

学習支援事業アンケート児童

Q1　参加した理由

	三小	七小	合計
自分から	8	2	10
友だちに誘われて	0	0	0
お家の人・先生から	13	6	19

Q2　参加してみて、算数に自信がついたか

	三小	七小	合計
かなり自信がついた	5	2	7
少し自信がついた	12	5	17
自信がつかなかった	4	1	5

※参加回数が少なかったため自信がつかなかった

Q3　中学の数学に対する不安

	三小	七小	合計
あった	13	7	20
ない	8	1	9

中学の数学に対する不安があった児童に対して
総ざらいパワーアップに参加して、不安な気持ちは変わったか

	三小	七小	合計
小さくなった	9	6	15
大きくなった	1	1	2
変わらない	3	0	3

Q4　指導者について

	三小	七小	合計
よかった	14	7	21
ふつう	4	1	5
よくなかった	2	0	2
わからない	1	0	1

※参加回数が少なかったためわからない

Q5　テキスト等は

	三小	七小	合計
簡単	4	2	6
ふつう	12	3	15
難しかった	5	3	8

Q6　また参加したいか

	三小	七小	合計
ぜひ参加したい	15	5	20
参加しない	6	3	9

アンケートからは、中学校への不安感が軽くなった、算数に自信がついた、のポイントが高くなっています。参加理由が親から勧められた児童が多いのに対し、「また参加したい」という児童のポイントが高いのは、始めは渋々の参加でも、やっていくうちに自分のペースで学習ができること、わかるまでスタディサポーターが見てくれることなど確実に理解することができる、ということが学ぶ喜びにつながっていることを証明しています。

算数の基礎学力定着に大きな効果があるかどうかは、時間をかけて検証してみないと確実なことは言えませんが、スタディサポーターの多くが、非常に有効だと答えてくれています。スタディサポーターの意見をまとめると、以下の通りです。

〇子どもたちの算数の基礎学力定着に有効である。
・レディネステストで、一人一人のつまずきポイントを明確にしていること。
・それに応じてプリント類が用意され、個別にさかのぼり学習ができること。
・終了後のミーティングで子どもたちの課題を共有し、対応ができていること。
・目標が立てやすいテキストを使用していること　　など
〇自分たちの研修の場として有効である。
・教育実習前に子どもたちへの教え方について学ぶことができること。
・学校の教室を使って学習を教える練習ができること。
・子どもたちがどういうところでつまずくのか、課題がわかること。
・わからないところをわかるように教えるにはどうしたらいいのかを学べること。

④コーディネーターとしてのスキルアップ

【スキルアップのための外部研修などへの参加】

◆研修先一覧

日　付	研修名	場所	内　容
10/27	まちと学校の未来フォーラム	あざみ野	法人格取得記念講演会 法人化を考えるための実地検分
10/30	東京都教育支援コーディネーター研修	水道橋	地域防災についての事例発表とディスカッション
12/1	東京都教育支援コーディネーターフォーラム	都庁	企業や団体との出会いの場 コーディネーター研修
12/4	地域とともにある学校づくり推進協議会	文部科学省	パネルディスカッション 事例発表
2/3	東京都放課後子ども教室指導者研修	三鷹市 協働ｾﾝﾀｰ	防災プログラム研修
2/5	東京都教育支援コーディネーター研修	小平市	学生ボランティアを受け入れるための勉強会
2/22	東京都青少年健全育成地区委員会連絡会研修会	新宿区 牛込箪笥	推進モデル事例発表

【授業コーディネート】

サポートネットの活動の拠点である三鷹中央学園（第三小学校・第七小学校・第四中学校）の授業のコーディネートを実践することで、自分たちのコーディネーターとしてのスキルアップを図りました。

授業コーディネートは、基本的に

各学校　⇒コミュニティ・スクール委員会地域コーディネート部　⇒サポートネット

という流れで依頼が来ます。

◆今年度取組んだ授業の一覧

単元名	学校・学年	日付・期間	内容
コミュニティパートナー	七小５年	通年	５年生５５名が、３２名の地域協力者（パートナー）と文通をつうじてつながりあう ★６／２８顔合せ会 ★２／２８交流会
ツボミスクール	四中１年	９／５ （水）	１年４クラスの女子が保健体育の授業として、下着の正しい選び方を学ぶ 協力：(株)ワコール
働いている人のお話を聞く会	四中２年	１０／１７ （水）	２年生４クラスに６名の職業人をお呼びして働くことへの苦労、やりがい、などのお話をうかがう。
心をつなごう　part１	三小２年	１０／２３ （火）	２年生３クラスが２４グループに分かれ、学区内の商店に出向き、インタビューをしてくる。

七小のすてきをつたえよう	七小２年	１０／２６（金）	２年生２クラスが１４グループに分かれ、学区内の商店に出向き、インタビューをしてくる。
地域安全マップをつくろう	三小４年	１１／２９（木） １２／２０（木） ３／８（金）	４年生３クラスが学区内６コース計１８グループに分かれ、町会の方にインタビューなどをしながら、フィールドワークをし、地域安全マップを作成する。 ★三鷹市安全安心課との打ち合わせ ★実踏、事前学習 ★発表会 ★防犯活動
心をつなごう　part２	三小２年	１１／２８（水） １２／５（水） １２／１２（水） １２／１９（水）	井之頭病院との交流

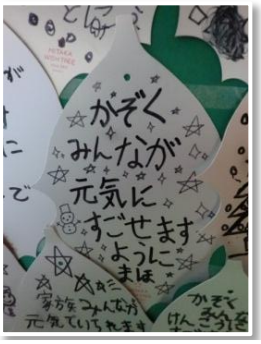
地域の安全をまもろう	七小３年	１／１８（金） ２／８（金）	３年生２クラスが学区内６コース計１２グループに分かれ、公園を中心に地域安全マップを作成する。 ★発表会
むかしのあそびをしよう	七小１年	１／３１（木） ２／５（火）	シニアボランティアと一緒に昔遊びを楽しむ
日本の文化に親しもう	三小５年	２／２３（土）	５年生３クラスが華道・茶道など日本の伝統的な１１のプログラムを体験する。

貿易ゲーム	三小６年	２／２３（土）	三小の６年２，３組が楽しみながらお金の流れについて学ぶ
ＭＩＫＡＫＯさん折句	四中３年	３／１１（月）	ポエムピクチャーアーティストＭＩＫＡＫＯさんによる卒業記念特別授業
防災教室	四中３年	３／１１（月）	みたかスクール・コミュニティ・サポートネットとの連携での防災授業

※授業から発展した授業以外のコーディネート

・みたかウィッシュツリー2013 大槌町×三鷹中央学園（１１月～１月）

三小 2 年「心をつなごう」の授業をきっかけに生まれた、地元商店会の皆様とのご縁と、11 月 22 日に視察にいらっしゃった岩手県大槌町の皆様とが新たなつながりを生み、大槌町の 925 名の児童生徒の皆さんと、三鷹中央学園の児童生徒が「みたかウィッシュツリー2013」のイベントをつうじて交流しました。

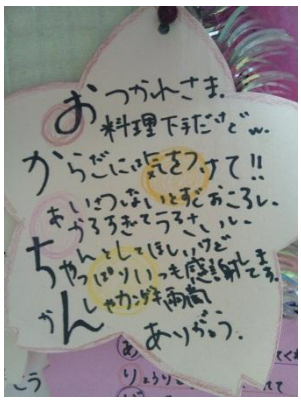


・三小図書館事業「わくわく学校　図書館たんけん隊」（３／２）

学校図書館の活性化と、学校施設の開放の推進を目的に、４月に小学校入学を控えた未就学児を対象にしたイベントを開催しました。当日はわたげの会（三鷹市文庫連読み聞かせボランティアサークル）の方による読み聞かせなどを行いました。

・四中　折句サクラプロジェクト　（３／１９卒業式に向けて）

３月１１日に行ったＭＩＫＡＫＯさんの折句授業コーディネート後、折句作品を、卒業式に展示するための制作。保護者からの要望に応え、四中３年生の学年主任、副担任の美術教諭などと連携をとり、制作準備をしました。



5　研究の成果

[地域防災]

まず大きな成果として挙げられるのが、防災をテーマに私たちが積み上げてきたことが、直接、学校の授業として取り入れられた、ということです。

防災テキスト「カンガエル地域防災」は、子どもたちの命を守り、共助の精神を持った子どもたちの育成を図る、という一貫した理念のもと、２年間学んできたものの集大成として作成しました。学校、教育行政、防災行政、地域が横につながっていけるような構成にもなっています。子どもたちを含めたすべての人々が防災について考えるための基盤となる一冊になりました。

また、「もしものときのハンドブック」についても、すでに保護者から反応がありました。ご自分の住まわれているマンションの住民の皆さんにも防災意識を高めてほしい、という思いからマンション住民にも配布をしたい、という申し出があったのです。地域全体から見れば小さな動きかも知れませんが、防災は、こうした一人一人の意識を変えていくことがとても重要です。小さな成果を積み上げて地域をつなぐツールとして活用され始めています。

[ほうかごカレッジ（講座）]

３月１５日に開催したＣＳセミナーでは、年度末の急な呼びかけにも関わらず、市内７学園すべてからの参加をいただきました。行政のよびかけではない、市民レベルのゆるやかなつながりの場が求められていることを感じました。

ほかの講座についても、内容的には大変素晴らしい内容で、参加してくださった方にとっては学ぶことも多く有意義な時間になったと、アンケートにも寄せられています。ただ、講座をとおしてつながりの場を創出する、という本事業の目的から考えた時、課題が残りました。（課題については後述）

[学習支援]

七小ＰＵＴ、総ざらいパワーアップの２つの学習支援の取組みをとおして、学校と連携して行う補習教室のあり方、地域主導で学生ボランティアの力を活用しての補習教室のあり方、など多様な方法での学力定着に向けた学習支援の取組みの基盤づくりができました。算数の勉強、ということに関しては、学校の先生がやること、という思い込みがありましたが、

①事業の目的や関わる人々の役割を明確にすること

②事務局がさまざまな役割の人をコーディネートすること

で、先生以外の、地域や学生の力が子どもたちの学習習慣や学力定着に大いなる力とな

ります。特に大学生の力は本当に頼もしい限りです。子どもたちにとっても、頼れる身近な存在として、ときに甘えたり、自分の悩みを話したり、逆に先輩としての話を聞いたりしながら自分の勉強を見てもらえるのは、学校や塾とはまた違った空気感を味わえるようです。

学生も、自分たちの研修の場として活用しながらも、スタッフとして関わることで事業の趣旨を理解し、子どもたちの主体的な学びを尊重してくれて、真剣に子どもたちに向き合う姿は子どもたちの学びを支えるパートナーとして本当に信頼できる存在です。また、若い柔軟な発想やアイディアは私たちの刺激にもなり、いい緊張感をもって取組むことができます。学生の力をコーディネートすることも、地域の教育力の活性化に重要な要素となります。

[学校教育支援・コーディネート]

今年度重点的に取組んだのが、私たちサポートネットのコーディネート力強化でした。昨年度の取組みから「コーディネートする人、あるいはコーディネート機能をもった組織の必要性」を感じ、個人としてではなく、組織としてコーディネータースキルを上げるための様々な取組みをしました。実際に授業のコーディネートを実践することがその近道です。図らずも、今年度は学校からＣＳ委員会への依頼が増え、コーディネートを実践する機会が多くありました。しっかりとコーディネートすることで、地域からの反応が予想を超え、さらに学習が発展していくケースが多く、子どもたちの学びがより深くなっていきました。

実感したのは先生方も同じで、最初は遠慮しながら依頼していたものが、だんだんと「一緒に授業をつくっていく」という感覚に変わったようで、授業に私たちがいることが当たり前になっていきました。

６　研究から見えてきた課題と今後の展望

・講座の開催については、企画、講師打ち合わせ、広報、準備等、手間がかかるわりに、参加者の少なさが目につきました。最近では、ＰＴＡが主催する講演会なども参加者が頭打ちなのだそうです。知りたい情報はインターネットなどで簡単に手に入る今の社会では、単なる講演では集客力に欠けるようです。

また、講座を開催することで地域の教育力を高めることができるか、広げることができるか、という視点から見ると、たとえば講演を聞いたあとにグループディスカッションを行うなど、さらにひと手間かけないと効果的ではないように思えました。

・スタディサポーターのような大学生ボランティアを継続的に確保するためには、謝

礼が支払える仕組みづくりが必須条件です。今回は1回1000円という謝礼をお支払していましたが、もっとも遠方から来てくれた学生は八王子からでした。第七小学校までの交通費は往復1180円（八王子⇔三鷹380円、三鷹からバス210×２）で、交通費を負担する形で来てくれていました。趣旨に賛同し、承知の上で来てくれていたとはいえ、学生にはせめて交通費を支払えるぐらいの財政基盤が必要です。

また、人づてや口コミに頼るのではなく、行政と大学との官学協働で、学生が地域社会活動へ参加できる仕組みを構築し、私たち地域団体が学生の受け皿となることが求められます。

今回参加してくれた学生からは、総ざらいパワーアップのような、学力定着に対する取組みを是非続けるべきだ、という意見を多くもらっています。学生も、またぜひ参加したい、という声をあげてくれています。この取組みを継続するためには、学生への謝礼を含めた運営費の確保が絶対必要条件です。

・今回、私たち自身が「働く」という感覚でコーディネート業務をはじめとするすべての業務をおこなってきました。16名のスタッフの人件費総額は3,572,400円でした。委託期間内の月活動時数は、一人平均約26時間です。ただし、これは個人によってかなりばらつきがあります。役員3名の月活動時数は、一人平均約67時間、一般スタッフは約17時間でした。一般スタッフの中には、ほかに仕事を持っている人も何人かいて、関わり方は個々に違います。

役員の 3 名が常に事前打ち合わせをし、すべてを掌握、采配し、ほかのスタッフがそれぞれ分担して担当し、実動する、というパターンがほとんどでした。ですので、コアスタッフ（ほぼ「仕事」として関わる中心的存在）数名、レギュラースタッフ（声をかければ比較的いつでも関わってもらえる存在）数名、その他サブスタッフ（自分の時間が許す限り手伝える存在）数名、と関わりの度合いによっての役割分担があってもいいかと思います。

ただ、2年間の取組みを経験し、自分たちの使命についてかなり重要性を感じ始めています。子どもたちへの学習支援、学校教育への支援、地域人材と学校をつなげるためのコーディネート等、自分たちのような学校教育支援組織が、学校からも地域からも必要とされていることを、実践をとおして全員が強く感じています。

委託事業が終了する次年度以降は、また無償ボランティアに戻るわけですが、活動資金をどう確保するのか、が本団体の大きな課題です。

・地域防災については、授業への導入という大きな成果を得ました。それを実践することが今後の課題であり、継続した取組みとなっていきます。

次年度、三鷹市の総合防災訓練が、第四中学校をメイン会場として11月4日に行われる予定になっています。その際に、防災教育を受けた四中生が防災ボランティアとして活躍できるよう、学校と一緒に取り組んでいくことが当面の目標となります。三

鷹市防災課、三鷹消防署、三鷹市消防団第七分団、日赤奉仕団等のご協力をいただき、中学生の育成に努めます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成２３年度、２４年度と２年間にわたって、地域の教育力を学校へつなげるために、自分たちがスキルを身につけ、コーディネート機能をもった組織として、常にアンテナを張り巡らし、地域人材を掘り起こし、地域を横につなげ、学校に働きかけていく、ということを、実践をとおしてより実質的な研究をさせていただきました。

私たちは、全員がＰＴＡ役員や地域子どもクラブの運営など、学校に関わる、子どもたちに関わる活動を経験した人たちが集まり作った団体です。生活の中の許す限りの時間を使い、自分の持っている能力を子どもたちのために惜しみなく提供してくれています。それは、そう特別なことではなく、学校を拠点として活動することが認められる基盤（学校の理解、支援の体制など）があれば、どこでも、誰でも取組むことができます。

基盤づくりはできました。これを継続可能なものするためには、ある程度の資金（活動費）が必要になってきます。学校教育支援で収益をあげるためには、さまざまなハードルを乗り越えなくてはなりません。私たちも法人化について検討を重ねましたが、収益を見込めないために、当面は法人化を見送ることにしました。自治体も今は財政難で、助成金などの資金援助もなかなか見込めません。が、この課題を解決するには、行政からの何らかのバックアップが必要になってきます。

学校には、防災について、あるいは学力格差についてなど解決すべき課題がたくさんあります。学校独自で取組むもの、学校でなければ解決できない課題もありますが、その多くは学校と家庭、地域がともに課題を共有し、取組むことで解決できることです。

学校の外に目を向ければ、地域には子どもたちのために協力を惜しまない人々がたくさんいます。学校に関わり、子どもたちにかかわって笑顔に接すると、地域の大人も自己有用感を感じ、地域活動はさらに活性化します。そういったいい循環を作り出すためには、それをつなげる人、コーディネーターの存在が必要不可欠なのです。

２年間の研究で得られた成果を大切にし、見えてきた課題を一つ一つ解決しながら、今後も地域の皆さんと学校とをつなぐ架け橋になっていければ、と思っています。子どもたちの豊かな成長のために、私たちにできることをこれからも追求していきます。

資料編

＊＊総ざらいパワーアップスタディサポーターレポート集

（学年は平成２５年３月１５日現在）

首都大学東京４年Ｙ・Ｉさん

1 小学校の算数定着を目的とした学習支援として有益かどうか

非常に有益だと思います。
中学校では、四則計算や分数、小数などができることを前提に授業が進んでいきますが、「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」に参加していた生徒たちは、十分に理解していない生徒が多かったです。その要因としては、家庭の事情などもあり、塾に通うことはもとより、自習を含めた授業外の時間を算数の勉強に充てることが難しいことや、授業のみでは、理解が遅れている生徒に学習のスピードを合わせることができないために理解が深まらず、そのため勉強へのやる気も減退するという悪循環があるように思えます。

この学習支援は、放課後に空き教室で実施することで参加へのハードルが低くなっていること、集中力を保てる１時間に限っているため学習量が適度になること、無料で参加できるため家庭の経済状況が影響しないことなど、上述した理解が遅れがちな生徒でも活用しやすい支援の在り方が作られています。そして苦手意識がある生徒が、この学習支援に参加することで、小学校低学年で学ぶ分野も含めて自分のペースで学習を進められ、私達大学生からのサポートもあり、わからないことは徹底して学習できるため、「今までよくわからなかったこと」が１つ１つ着実に「わかる」ようになっていくのが見て取れました。

2 学校（教員）と連携して行える事業かどうか

個別の生徒の性格や、普段の生活の在り方、学習への理解度や意欲など、教員の方がより正確に、深く把握している部分について、運営側や私達スタディサポーターに共有できるようにすれば、より効率よく学習支援が進められると思います。

3 教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディサポーターの確保、広がりの可能性について

私自身は教員志望ではないのですが、有益だと思います。
実際に小学校の教室で学習の支援をするので、塾講師や家庭教師では不可能な「教室という場に慣れる」ことができると思います。生徒との距離の測り方や、身の回りの教材の使い方など、実践的な指導ができることは貴重です。また、生徒が１つ１つを正確に理解できるよう努めることで、具体的にどういうところが理解の妨げになっているかがわかることも大きいと思います。実際に授業をする際、注意深く説明すべき点を心得られるのではないでしょうか。このような魅力があるので、大学の教員に協力を仰いで存在を周知すれば、サポーターの確保はさほど難しいことではないように思えます。

4 これらを含めて継続的な事業にするための課題と解決策などについて

この学習支援の在り方に対してではなく、この事業を運営するための資金の確保に課題があるように思います。教員の手を借りずに保護者や地域住民のみで運営するには、教材その他必要な物品の確保に資金が必要です。しかし今回のように助成金を基にやるには、専門的な知識やその申請にかける膨大な時間・労力が必要です。なので、事業を継続・拡大するためにも、学習支援に充てる国の予算を増やすべきだと思います。このような事業が継続し、日本全体に広がれば、日本全体の学力アップに間違いなくつながると思います。

学習支援員M・Kさん

① 小学校の算数定着を目的とした学習支援として有益かどうか

まず初めにレディネステストがあること、薄いテキスト一冊が準備されていて終わらせるべき目標がはっきりしていることは、学習の仕方としてとても良いものだと感じました。テストによってどの辺りが苦手なのかある程度推測できることから、面識がない児童に対してもスムーズに支援に入ることができたので、時間のロスがなく毎回有意義に指導ができたと思います。1ページずつ進めていくテキストの出来によって補習のプリントをはさんで行くことで、個別の習熟も図れたと思います。

今回部屋を二つに分けて指導をしていく中で、私はKさんとSさんの二人の児童にほぼつきっきりで指導に当たらせて頂いていました。私がつきっきりになることで、他のサポーターの方に教わる機会を少なくさせてしまった反省もあります。しかし回を増すにつれて二人とも心を開いてくれて、勉強の合間に笑顔が増えていったこと、特にSさんは口数が少なくわからないところを自ら質問することも苦手にしていましたが、最後の方は「ここが分からない」と素直に口にするようになってくれたことは、良かった点では無いかと思っています。また出来るだけ同じクラスに入らせて頂いたことで、児童の名前や個性もだんだんと知ることができ、苦手な部分に対してもさまざまな対策ができたと思います。最初の頃と今とでは児童の表情も変わってきて、児童は少しずつ自信がついていったのではないかと感じ、総ざらいパワーアップはとても有益であったと思っています。

② 学校（教員）と連携して行える事業かどうか

授業内でどう教えているのか、中学にどうつながっていくのかは、大学生のサポーターのみでは判断できない部分が多くありました。ですので、その点について担任の先生方に教えて頂くことは重要だと感じます。また、児童同士のトラブルも多々あったことから、児童の特性や相性を考慮する上で、学校や先生方と連携する必要があると感じています。

③ 教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディサポーターの確保、広がりの可能性について

とても有益だと思います。スタディサポーターは、ただ分からないところを教えるだけでなく、終了後の打ち合わせにて、その分からない部分をきちんと理解・定着するための手立てを考えて意見を述べる必要がありました。支援員として学級に入るボランティアとはまた違う、自主的な姿勢が必要となる場ですので、教員を志望している学生にとって、教え方を考えるようになる良い場になると思います。近所の大学や、来ている大学生の友人関係など教員志望の学生を確保し、とく今回の三小のように児童の数が多い場合はなるべく多くのサポーターを確保して個別指導を充実させたいと感じます。

④ これらを含めて継続的な事業にするための課題と解決策などについて

継続的な事業にするためにまず課題になるのはサポーターの確保だと思います。近くの大学との提携や教育実習生の伝を頼るなどして、手厚く個別指導ができる体勢を整えることが理想ではないかと思います。

学習の仕方としては今回のやり方で十分成果が出るのではないかと感じます。ミス無く一回で合格した際にもらえる金シールの導入によって、児童に自主的に見直しをするようにさせたり、苦手な単元は補習プリントをやらせたり、児童の学習レベルに合わせて目標を変え、柔軟な支援ができたのではないかと思っています。終了後の打ち合わせも、児童一人ひとりに対してフィードバックを行うので、それによって児童理解も深まり、次回の指導につなげていくことができました。

それとともに、「やりたくない」と匙を投げる児童に対してどこまで学習をさせるかが学習上の課題であると感じています。自ら学びに来ている場ではありますが、親御さんに言われていやいや来ている子もいます。ですが、やりたくないからと言ってやらなくてよいとしてしまうと全体の士気の低下につながる恐れもあります。そういった児童にどのように働きかけをし、自主的な勉強につなげていくか、常に考えて行動に起こしていかなければならないと思いました。もしかすると、一貫した方針があると、サポーターにとっても叱りやすい（注意しやすい）のかもしれません。

短い間でしたが、とても勉強になりました。教師を目指す学生にとって、とても良い学びの場であると思います。算数を不得意としている小学生のためにも、教員志望の学生のためにも、是非とも長く続けていってほしいと思っています。

創価大学４年Ｊ・Ｉさん

①　小学校の算数定着を目標とした学習支援として有益かどうか

小学校で学んだ基礎問題を広く扱っている教材を使っていたため、どこが自分にとって得意分野なのか、逆に苦手分野なのかが歴然と見てとれるため、苦手分野を集中的に補習することができるので、算数定着を目標にした学習支援として有益だと思います。最近習った６年生の問題が解けても、５年生のときや４年生のときの学習を忘れている子が多く、学校の授業だけではそこをカバーできない子たちだったので、しっかり１対１でカバーできたことは大きかったと思います。

②　学校（教員）と連携して行える事業かどうか

もっと教員と連携して行ってもいいと思う。この学習支援の統括をしている方々だけではなく、私たちサポーターも教員と連携を取っても良かったのではないかと思います。児童１人１人、どのように教えれば１番効率がよく頭に入ってくれるのかが分かるのに時間がかかったので、週に１～２回しかなくたった１時間しかない大事な時間なので、１人１人の日頃の勉強に対する姿勢が最初から分かっていれば、もう少しスムーズに先に進めたのではないかと思います。

③　教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディサポーターの確保、広がりの可能性について

インターンシップというよりボランティアとしてのほうが有益だと思います。もっと教員や学校とのかかわりが密接になればインターンシップにしても有益だと思います。また、今回のように短期間ではなく、通年を通した学習支援にすれば、サポーターの私たちがさらに自分の友人をサポーターとしてこの学習支援に携わらせることができ、サポーターの人数も確保でき、より子どもたちと１対１の支援ができ、広がっていくと思います。

④　これからを含めて継続的な事業にするための課題と解決策などについて

この学習支援を行って教員志望のわたしとしては、教えることの難しさを再確認することができ、また子どもたちが「分かった！」と言ってくれたときのキラキラとしたまなざしを見ることができ、大変勉強になりました。このような教員の卵である学生とうまく連携を取り、支援する側のわたしたちもこどもたちも両者ともが勉強になる場であれば、継続的な事業として成り立つと思います。

東京家政学院大学１年Ｍ・Ｋさん

①　小学校の算数定着を目的とした学習支援として有益かどうか

私は有益だと考えます。各個人に対して本人に合った課題やカリキュラムを用意することにより、子供が目標を持って勉強に取り組むことできたと思います。また、大学生などの学生に教えてもらうというのは、子供たちにはとても新鮮な体験で、勉強に新たな気持ちで取り組むことができると思います。

②　学校（教員）と連携して行える事業かどうか

連携して行ったほうが良いと思います。教える学生と各担任教員との間に、生徒に対する情報交換があったほうが、教える際にどのように教えるか学生が計画を立てやすくなりますし、スムーズに教えられると思います。今回は、学生自身が教員の方々と交流するということはなく進められていましたが、私は学校側（教員）と学生自身にも少しでも交流があるべきではないかと思いました。

③　教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディサポーターの確保、広がりの可能性について

私自身が教職を希望しており、私は今回の総ざらいパワーアップに参加させていただいてとても良い経験になったと思いました。学生が教育現場に携われる機会はとても少ないので、このような機会があれば教育実習に行く際に学生の自信にも繋がると思います。また、この企画に参加することにより教職に対する興味や関心を持つ学生が広がる可能性も感じました。以上のことを含め、私は教員志望学生のインターンシップの場として有益だと思います。

④　これらを含めて継続的な事業にするための課題と解決策などについて

私は教育実習には行ったことがないので課題やそれについての解決策などは見つけることは出来ませんでした。そこで、ここでは気付いたことなどを述べさせていただきます。この総ざらいパワーアップは子供と学生（先生役）が個別指導という形はとってはいませんが、私は個別指導にするべきではないかと感じました。個別指導でない形をとることにより、様々な視点から各子供たちを見ることができ、一人の学生からでなく複数の学生から様々な知識を得ることができます。ですが、その反面、周りに友達が多くいて問題になかなか集中出来ず、他の子にいたずらをしてしまう子が多くいました。教える学生側でも、見る子供たちにバラつきが出てしまいせっかくのこういった機会があるのならば、一人一人充実した勉強環境にしてあげたいと思いました。

個別指導には、子供に対して同じ人数の教える学生が必要で、その人員を確保するのは非常に難しいですが、個別指導にすることにより各子供の状況・特徴などを一人の学生がしっかりと把握し、子供たちが自信を持って中学に進めるようにしてあげられるこの機会を、少しでもより良いものにしたいと感じました。一対一の個別指導が難しいのであれば、一人の学生につき子供二人まで勉強をみるなど制限を設けることにより、子供に出来る限り密着した勉強環境を提供できるように出来ると考えました。

みたかネットワーク大学教師力養成講座修了生M・Mさん

① 小学校の算数定着を目的とした学習支援として有益かどうか

この講座は参加する児童一人ひとりのレディネスに即した活動が行われていると強く感じました。そのため参加した児童の理解度に合わせ小学校の算数を定着させるのに有益だと考えます。以下に具体的な理由を述べます。

第一に、レディネステストが行われ、診断的評価がきちんと行われている点です。この活動では最初の会で児童の現段階での小学校算数の理解度をはかるためにテストが行われています。そのため指導するスタディサポーターの方々も児童一人ひとりの理解度を把握したうえで指導をすることができていたように感じました。

第二に、レベルに合った教材準備がされていることです。最初は児童全員が同じ教材からスタートしています。しかし躓きがみられる児童に対しては弱点を補強するようなプリントを準備し、一方でテキストが終わってしまった生徒に対してはレベルアップのための難しいプリントが準備されています。その児童が必要としている学習段階の教材が揃っているため児童が小学校の算数を定着させるには良い環境にあると思いました。

第三に、講座終了後のスタディサポーターによる会議が挙げられます。毎回の講座の後必ず行われるのがスタディサポーターによる会議でした。ここで児童一人ひとりの進度や弱点、次回の講座で何をやらせるかを話し合い、スタディサポーター同士で児童の情報を交換します。そのため児童の弱点を第三者の立場から見定めることができます。また、様々なスタディサポーターが児童を見るため、一人の意見に偏らずに児童を支援していくことができます。

以上のことから私は小学校の算数定着を目的とした学習支援として有益だと考えます。

② 学校と連携して行える事業かどうか

私が今回スタディサポーターとして活動している中で正直、学校と連携して行っているということを実感することはできませんでした。しかし私たちよりも児童と関わる時間が長い先生方から児童の情報を提供していただいたり、教材の工夫など教育者としての観点から指導していただいたりして学校と連携していくことは可能だと考えます。学校との連携していくことでよりこの事業が有益なものとなっていくと思います。

③ 教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディサポーターの確保、広がりの可能性について

私自身、インターンシップとしては有益だと感じました。私は中高共通数学であったためボランティアは基本的に中学校で行っていました。そのため小学生がどのような点に躓き、疑問を感じる機会があまりありませんでした。しかし今回この活動に参加して児童の躓くポイントを中学校でどのように生かしていかを考える良い機会となりました。私が感じたこととしては、もう少し学校の先生方との交流できたら良かったということです。そうすれば、もう少し違う観点からまた違うことに気づけたかもしれないと思いました。

④ これらを含め継続的な事業にするための課題と解決策

課題としてあげられることが２点あります。

第一に、やる気のある児童とそうではない児童が一つの教室に混在していることだと思います。児童はまだ周りの環境に流されやすい年頃です。その中で少しふざける児童がいると、一緒になって騒いでしまい周りで勉強に取り組んでいる児童の集中力を妨げていたように感じました。全ての児童が充実した時間を過ごすために改善が必要だと感じました。そのため、児童に達成感や成功体験ができる機会を設けることが重要だと感じました。

第二に、児童の学習が受動的なものになっていることです。児童は毎回やるべきことが決められているため自分で考えて進めるということがありません。そのため途中で学習に飽きてしまうということが起こっていたように感じました。大枠のカリキュラムは定めて、児童にも考えさせるそのような機会があればより良い活動になるのではないかと考えます。

東京学芸大学４年Ｈ・Ｔさん

今回の事業は、小学校の算数定着を目的とした学習支援として有益であると考えます。
算数において、つまずきのある少人数の子どもたちを対象として行うことで、一人一人の子どもたちがどの単元（分野）において、つまずいているのかを把握しやすく、つまずいている単元を重点的に指導することができ、子どもたちの学びの改善につながると感じました。
また、普段の授業で行われるような統一された問題を解くのではなく、子ども一人一人の能力に応じてプリントを変えることで、子どもにとって最も理解が深まると考えられます。
また、一人一人に合った問題を提供することで、子どもたちがしっかり考えながら解くことができ、「やればできる」と子どもたちが感じ、やる気を引き出せると感じました。中学校の数学の授業に向けて、小学校の算数の内容を理解しておくことは大事なので、つまずきをなくすことのできる今回の事業は広げていくべきであると感じました。

事業前における普段の授業での子どもたちの学習の状況や事業の実施中や事業後における子どもたちの学習状況の変化を学校（教員）と共有することでさらに、子どもたち一人一人に合った支援ができると考えます。逆に、事業での子どもたちの変化を教員と共有することも重要であると考えます。

今回の事業は教員志望学生にとって、たとえ 1 時間という短い時間でも子どもたちと直に触れ合い、学習のつまずきに対して支援できることは大変貴重な経験であり、有益であると感じました。つまずきのある子どもたちに対して、子どもたちが理解できるようにどのように指導していくのか工夫する良い場にもなると感じました。
スタディサポーターは、大学や地域の方に呼びかけることができれば、確保はできると思います。三鷹第三小学校や第七小学校だけではなく、多くの学校で実施してみれば、事業は有益なので、広げていくことができると思います。

教員との連携や協力ができるのであれば、高学年のうち（もしくは 6 年生のはじめ）から今回のような事業を実施することで、一気に子どもたちのつまずきが明らかになり、まとめて解決していくのではなく、時間をかけて子どもたちのつまずきを一つ一つじっくりと解決していくことができると感じました。中学校進学前の子どもたちが一気にまとめて復習するよりも、早い段階から少しずつ復習することで、子どもたちの理解が深まると考えます。
今回の事業をぜひ多くの学校で実施して、子どもたちのつまずきを改善してほしいと思います。

東京家政学院大学１年Ｃ・Ｔさん

①学校の算数定着を目的とした学習支援として有益かどうか
　今回の総ざらいにおいて、児童は小学校の算数のまとめテストを受けた上で問題集やプリントといった課題に取り組んでいました。そうすることにより、各々の苦手な点を把握することができ、またその部分を集中的に強化することが可能となります。
さらに、スタッフによるミーティングを通して児童一人ひとりの課題の進行状況や理解度について確認することができ、よりきめ細やかな指導が展開されていたように感じました。少人数教育を行う上で、こういった動きは重要になってくると思われます。
　以上の点から、今回の事業は小学校の算数定着を目的とする学習支援として有益なものであると考えます。

②学校（教員）と連携して行える事業かどうか
　今回の総ざらいは放課後の時間に行ったものなので、先生方とはあまり連携できていなかったような印象を持ちました。しかし、担任の先生が総ざらいの教室に来ることで、集中力の欠けていた児童が真面目に学習に取り組むようになるという様子が見受けられたことがありました。そういった点を考慮すると、時間があるときに先生方が教室に様子を見に来るというという形でも今後連携していくことはできると思われます。

③教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディサポーターの確保、広がりの可能性について
　今回の事業は算数のみでしたが、少人数教育という形式を通してさまざまな児童と関わることができ、またミーティングをした上で指導を展開していったので、教育実習に近い形であると感じました。その点から考えると、この事業は教員志望の学生にとって有益なものであると言えます。
　また、スタディサポーターについては、教育実習生や学生ボランティアを中心に事業への参加の呼びかけをすることで必要な人数を確保することができると考えます。また必要に応じて近隣の大学に事業の紹介を行っていっても良いと思います。

④これらを含めて継続的な事業にするための課題と解決策などについて
　今後もこの事業を継続していくにはやはり、先生方との連携をもう少し強化していくべきだと考えます。総ざらいの準備として、児童一人ひとりの苦手な分野や得意な分野などを把握しておくことで、指導の仕方を事前に構築することができます。そうすることで、スムーズに指導ができるのではないかと思いました。準備段階で指導方針などを先生方と話し合う機会があれば、この総ざらいの事業はよりよいものになるのではないかと考えます。

日本体育大学３年Ｋ・Ｍさん
　みたかスクール・コミュニティ・サポートネットのスタディ・サポーターとして約２ヵ月間、子供達に勉強を教えるという貴重な事業に参加させていただいた感想は自分自身とても勉強になって充実した２ヵ月間だったな、と感じています。
　この活動の目的は算数でつまずいている、もしくは、苦手意識を持っている子供が中学校の数学で不安にならないように、分からなくて諦めてしまわないように、分からないところや苦手なところをできるようになること。出来るようになり「自信」をつけ、分からないことがあっても自分で聞いて、諦めずに考らえるように手助けすること、そんな素敵な活動でした。
　この活動をする前までは子供に勉強を教える機会などなくて、これから行く教育実習でどう授業を展開すればいいかなどの不安と緊張でいっぱいでした。でもこの活動に関わらせて頂いてから、その日あまり伝わっていなかった問題の事や自分たちが普段当たり前にやっている計算を、どう伝えれば分かりやすいかを考え、次回同じような問題でつまずいている子に説明した時にすっきりした顔を見せてくれることがすごく嬉しかった。
前は恥ずかしがって手をあげて質問も出来なかった子が、次に来たときには手を挙げて質問が出来るようになっていたこと、苦手だった分数を気付いたらスラスラ自分で解けるようになっていたこと、「学校の先生」という仕事の素晴らしさを感じられました。
　楽しいことばかりではなく、多感な時期の子たちなので、やる気が最初からなかったり歩き回ったり喧嘩してしまったり大変なところもしっかり体験でき、ハプニングの対応の仕方、自分でもやってしまいそうなことの細かい注意など様々な発見、様々な体験をこの短期間に経験できたことが冒頭の感想につながります。
　私がこの体験を通して感じたことを参考にすると、この活動が算数定着を目的とした学習支援として有益であることは確かです。これから教員として関わっていく方、実習で関わる方、様々な学生がいましたが、教員として又実習生として関わる前にこの活動を体験することはインターンシップの場としても有益だと思います。僕自身、不安がいつの間にかなくなっていて、むしろ明確な課題や目標が見つかりましたし、多少ですが実習前に自信にもなったからです。
　小学校はたくさん教えることがあるため理解しきれてないとこを見つけることは難しいと思います。実際に教えていて公式を忘れていた子や計算の仕方を忘れていた子が最初はたくさんいたので学校と積極的に連携することで学力の低下などの負の要素を少しでも抑えることができる事業だと思いました。　良いことづくしの事業でしたが私が提案したいことは、一度でも良いので現役の先生の話を聞ける機会があれば良いなと思ったのと、もっと先生が現場に来て指導の仕方を見られればよかったなと思いました。そう思ったのは、注意してもあまり聞いてくれない子や集中しきれない子への対応に困ったからです。その時の指導をどう行っているのか、どういう伝え方をしているのか、どういうことを注意しているのか、を現役のいろんな先生から学んだり盗めればもう少し自分たちの力で子供達を勉強に集中させる事が出来て、効果が伸びる可能性があると思ったからです。
　子供達だけでなく自分自身の勉強にもなるこの事業に関わることが出来て本当に良かったです。

中央大学入学予定Ｙ・Ｓさん

①小学生の算数定着を目的とした学習支援として有益かどうか

とても有益だと思います。なぜなら、少人数制で先生達は児童一人一人にきめ細やかに指導でき、児童も気軽にわからない所を質問できたからです。特に苦手分野を克服するには、とても有益な時間だったと感じました。

また、復習をあまりしない子にとっては、一度身に付けたものを忘れる前に復習できて、定着させる良い機会です。

②　学校(教員)と連携して行える事業かどうか

行えるかと言うよりは、この事業を行うには学校との連携が不可欠だと思います。なぜなら、小学生の学習意欲はとても気分に左右されやすいように感じます。その為、その子がどういった学校生活を送っているかなど詳しく知っている必要があるように感じました。

また、先生達からこの子はこういう所が苦手などという情報をもらえると教えるほうも重点的にその子の苦手な所を教えられるので効率的で、出欠を取る際にもなぜ休みなのかなどを知ることができ、開始時間に全員同時で始められるので良いと思います。

このようなことからも、連携して行うべきだと思います。

③　教員志望学生のインターンシップの場として有益かどうか、スタディーサポートの確保、広がりについて

インターンシップの場としては、とても有益だと思います。教育実習などでは、全体で教える機会が多いので子どもの苦手なところを見逃しがちになってしまいますが、「総ざらいパワーアップ」の方では、子供達をじっくり見ることができるので子供が苦手とするところや同じような間違え方などが見えてくると思います。それを知ることで授業中に重点をおいた方が良いことに気がつき、授業が向上し、児童の理解度が格段に上がると思います。

④　これからを含めて継続的な事業をするための課題と解決策など

児童を指導する先生の数は足りていましたが、丸付けに入る人が少なかったように感じたのでもう少し丸付けに入る人がいたほうが良いと思いました。

＊＊総ざらいパワーアップ　保護者アンケート

学習支援事業アンケート

Q1　この企画に、ご自身のお子様は参加されましたか？

	三小	七小	合計
参加した	11	5	16
参加しなかった	35	15	50
企画を知らなかった	5	1	6

Q2　参加した児童の保護者に

①　小学校の算数の定着ができた？

	三小	七小	合計
定着できた	3	0	3
ある程度	7	4	11
成果なし	1	1	2

②　算数において、不安なく中学へ進学できるようになったか？

	三小	七小	合計
不安なく進学できる	3	0	3
多少、不安解消	7	4	11
不安である	1	1	2

不安である（具体的に）
・学習面や子どもの態度
・子ども本人の学習意欲の方向性が確立できていないため

③　地域がサポートする仕組みについて

	三小	七小	合計
必要有	10	3	13
必要なし	1	0	1
わからない	0	2	2

・地域がサポートする必要はないが大変ありがたいです。「必要」＝「地域の義務」となると何か違う気がします。

④　指導者が教員志望の学生・地域協力者という点について

	三小	七小	合計
問題ない	11	4	15
不安である	0	0	0
無回答	0	1	1

⑤　家庭でこの企画の様子についてお子さんから聞いたことはありますか

	三小	七小	合計
ある	8	5	13
ない	3	0	3

具体的に
・ひっかかり気味だった分数のかけ算・割り算が得意になったと
本人は大変喜んでいました。本人ははじめ、あまり乗り気では
ありませんでしたが、声かけして大正解でした。
どうも有難うございました。ご指導に感謝いたします。
・わからない所がわかるようになった時のうれしさについて。
わからないことが怖くなくなったこと。
・学習内容・プリントを使う等
・何人ぐらい来てる？とか、やってみてどう？など聞いている
・学習方法について
・聞いても教えてくれません
・わからないところを丁寧に説明してくれた。
また、楽しかった。と話してくれました。
・その日に学習したことを聞きました。

・プリントを見ながら教えてもらったことなど
・普段の授業とはまた違っていて、ドキドキ（？）している。（たのしい）
・学習内容と理解できたかどうか
・教室の雰囲気や先生の人数など
・教え方の上手な方もいましたが、声が小さくわかりづらい方もいたようです

⑥　また、参加させたいですか？

	三小	七小	合計
ぜひ参加させたい	11	5	16
参加させない	0	0	0

⑦　参加費用（教材費）についてどう思われますか？

	三小	七小	合計
高い	0	0	0
問題ない	9	5	14
安い	2	0	2

⑧　中学入学にあたり、学習面において不安なこと

・　漢字や他教科などの補習もあれば有難いです。
学習のスピードについていけるかしら・・・と。中学で急に成績順位がつけられて
ショックかも。（親が・・・。よければよいのですがね。）
・　国語もやってほしい。
・　小学校とは学習の仕方そのものがかわると思うので、それに本人が気付き学習して
いけるかどうか。
・　三小は宿題が少ないように感じます。学習したことを定着させる機会を家庭で積極的
にもたないとならず、全般的に理解の浅さが心配です。
・　小学校の授業にもついていけなかった子が中学の学習についていける気がしません。
学校の授業がわからなければ楽しくもなくなると思うのでとても心配です。

・　以前、算数（数学）は「難しいもの」というふうに思ってしまっており、敬遠してしまう。
（参加して、少し前向きになった気がします。）ありがとうございます。
・　学習面では全てに不安があります。学習に対する姿勢が出来ていない。
・　国語もあればよかったです。（漢字・文章力に少し不安があります。）

＊＊七小ＰＵＴボランティアスタッフ　アンケート　まとめ

①「子どもたちの学力定着」の観点から見た成果と課題について

・２年生で習得するかけ算九九が、学年が上がる毎にあやふやになっている様に感じます。各学年で機会を設けて、かけ算九九の確認をしていけたら、このＰＵＴがいきてくるのかなと思いました。

・僅かな時間内で、与えられた課題に集中できる児童もいれば、集中力なく課題に向きあう姿勢の弱い児童もいて、成果は不明です。
ＰＵＴに参加する目的がわからない児童もいるのでは？と、思うこともあります。

・つまずきをその場で解決できるこのマンツーマン方式は、とても効果的な勉強方式だと思います。
学力定着の観点から言うなら月２回では少ない気がします。
九九暗唱ですが、九九の必要性を説明して覚えるように伝えても、実際には次のＰＵＴまで何もしないからいつまでたっても苦手な段は苦手なまま。自宅学習ができるとよいのですが。
九九が完璧でないと計算ミスも減りません。また計算スピードもあがりません。

・はじめのころに比べると、集中できる時間が長くなった子がふえたような印象を受けます。
九九などは、おうちでもみてもらえたらな～と思う子がいます。
全体的に子どもたちの取り組み方がよくなってきていて「どうしてＰＵＴにきているの？」というレベルの子も出てきているように思います。

・私が担当した児童は、学力的問題というより学習態度に問題があったのでは？と思いました。
ＰＵＴの時間中は、いつも真面目にいっしょうけんめい頑張っていましたし、プリントもよくできていましたので、そういう意味で成果はでていたと思います。
そばにいるだけで子ども的にはよかったのかもしれません。

・今までに会った子どもたちはみんな真面目に一生懸命取り組む子ばかりでしたので、さらに繰り返すことで伸びていくことと思います。
ＰＵＴは時間が短いので、あまりいろいろできなくて残念に思うことが多いです。

・ずっと同じ児童を担当していると特に「かけ算の暗唱」の成長・まちがえる所がよくわかりました。
児童にもよりますが、なるべく同じ児童を担当する方がいいです。

・初めのうちは落ち着かず、きょろきょろしていたり、おしゃべりしたりすることが多くすぐ取り組めなかったりしていたのですが、回を重ねるごとにＰＵＴにきてすぐ課題に取り組めて、集中できるようになったと思います。

・個別の指導は、みんなと同じ勉強を詰め込むことではないので、重点を絞ることで一つ一つ確実に成果があがったと思います。
学力定着は、勉強そのものではなく、勉強する時間が定着し生活習慣になることだと

思うので、成果は充分あったと思います。

・学習の習慣づけ、弱点の繰り返し学習は大切だが、ひとりではなかなか難しい。ＰＵＴでは「仲間がいる、ひとりじゃない」と感じられることや、地域のボランティアによる励ましがあり、学習の継続につながったと思う。
自信のない児童にとって「できなくても大丈夫、ここはできたね」という肯定の場となり、苦手な事に対して前向きになる変化がみられたのではないかと思う。

・１対１の個別指導形式をとっていたので、児童一人ひとりが苦手な部分を効率良く克服していけたのではないかと思います。

一部集中力の欠けている様子が見受けられたので、席の配置などをもう少し工夫すれば改善できるのではないかと思いました。

・席順を考えた方が良いと思う。

・1対１で見ることで、その子の苦手なところ、つまずいてしまう理由がわかります。
私たちが、その部分を見つけ、教えてあげることができることは、少しずつですが学力定着につながっているように感じます。
こちらから先生方へ「ここの部分が苦手なよう、理解できていないようです」と、発信したことを、先生がもう一度みてあげられる（教える）ことができると、更に学力定着になるのでは・・・

②「学校との連携」の観点から見た成果と課題について

・運動会や学芸会などの学校行事の前は、どうしても時間がずれての開始となっていましたので、次年度はこの部分に関して検討していただけたら良いのかなと思います。
担任の先生の声かけで、子どもたちのやる気がずい分とちがうと思いますので、ぜひ、ＰＵＴの前に声かけを！！

・学校との連携とは、何を指しているのか漠然としていて、少しはずれた意見になるかも知れませんが、ＰＵＴにおいて児童と学習すべき内容は先生のメモで充分把握できますので現状でいいと思います。

・先生からのひと言は、子どもに接する時にとても参考になるので是非毎回書いていただけるとありがたいです。（先生も大変でしょうが・・・）

・担任の先生とやりとりできるようにシートを用意していただいたのですが、先生のコメントがないこともあり、少しさびしいな、と思いました。　先生方もお忙しいのでしょうが・・・

・後期から採用されたファイルによって、先生との連絡がスムーズになり良かったと思います。
子どもたちも、自分のやるプリントが先にあるので、席につくとすぐ始められました。

・こちらからのコメントに対して担任の先生からお返事頂けると嬉しくモチベーションが上がります。

・短い時間なので、課題が終わるくらいの時間がとれるといいなと思いました。
子どもによって、課題によっても進度が違うのですが、すっきり終われるといいなと思います。
・課題に対して上手く連携できていたと思います。
子どもによってはこなせる課題から入らないと次へのステップへいけないので、まずはスムーズにこなせる課題があると良いと思いました。
・毎回、それぞれの児童の教材がきめ細かく用意されていて、学校と事務局の連携がとても細やかにされていると感じました。
・児童一人ひとりの進度を先生方が計画してくださったので、それに基づいて指導を展開することができ、連携は上手くできていたように感じました。
・とても良くとれていると思います。
・先生からのコメントがあると、ＰＵＴを受けて子どもたちが変化していく様子、その子にどう対応して良いかわかり、とても良かったです。
時々コメントなしがありました。　　先生方もお忙しいでしょうが、コメントよろしくお願いします。

③運営に関してのご意見・ご感想
・細かいご配慮ありがとうございました。
シフト組み等、人員確保が大変だったと思います。　私自身も会議等の重複で、ご迷惑をおかけしてしまいました。　すみませんでした。
・ＰＵＴの担当者として、実施日に学習状況など記入していますが、ご家庭のご意見なども知ることができれば・・と思うこともあります。
・特に問題はなかったと思います。
・子どもが、シールなどもらえることで、意欲を持てるようになっていったのもよかったと思います。
・先生方との懇談会があり、先生方から児童の様子や変化を伺うことができるのはとても参考になり、励みにもなりました。
・児童が（個人）ファイルを忘れてくる例が多く見受けられたので、その対策が必要なのではないかと思いました。
・担当の人を頻繁に変えると、子どもの集中力がそがれる。担当も引き継ぎが少々手がかかる。
・何も問題ありません。毎回やること、必要なプリントなどすべてそろえてあり、とてもやりやすかったです。

④そのほかに感じたこと、ご意見など
・次年度は、三小でもＰＵＴの取り組みが行われるというお話ですので、より計画的に学校と予定を組む事ことが大切だと思います。　大変ですが、どうぞ次年度もよろし

くお願いいたします。

・ＰＵＴのボランティアに対し、具体的に先生や保護者からの要望、希望があれば、どんどん聞かせてください。少しでもお役に立てればと思い参加していますので。

・①でも書きましたが、毎回コメントに「〇〇の段が苦手です。」と書かなきゃならなかったり、書かれていたりするのを見て、進歩がない事に空しさを感じます。

・どの子もそばで見ていて、声かけをしてあげただけで集中していました。
勉強がわかっていないのではなく、教室や家の中での学習環境が、その子にとって集中できない状況なのではないでしょうか。
安心して集中出来る場の有無が学習意欲や定着に大きな影響を与えるのだと痛感しました。

・とてもよい取り組みだと思うので、続けていってほしいと思います。

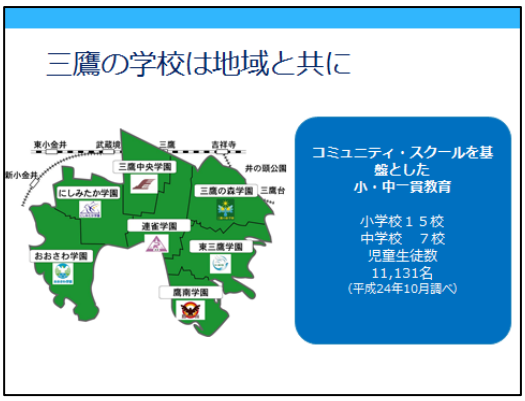
・算数に関しては、小学校一年生からの積み重ねが大変重要だと思いました。
特に、1・2 年生での計算力についてしっかり定着することが、3 年生に進級する前に重要だと思いました。

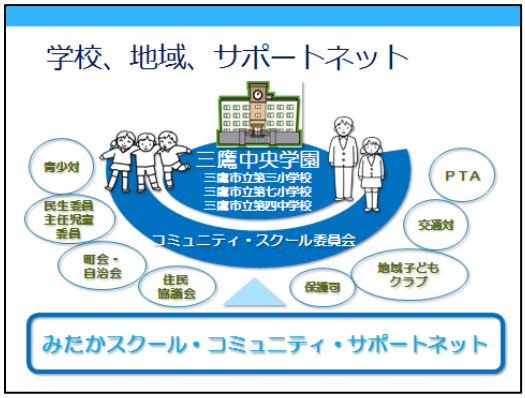
・学習は、児童本人がその気になり、学習と向き合うことが大切だと感じました。
苦手な事から逃げずに学習するという気持ちになるためのお手伝いが、少しでもできればと思います。

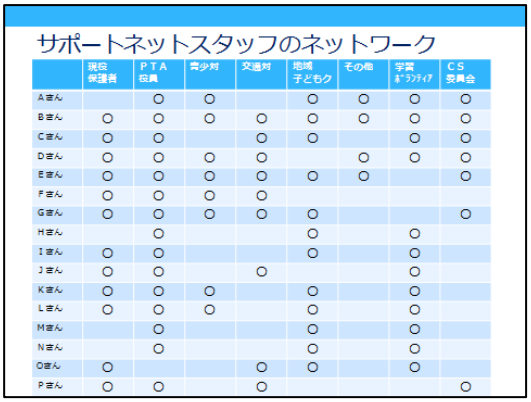
＊＊サポートネット　事例発表用　スライド

２／２２　東京都青少年健全育成地区委員会連絡会研修会　事例発表用

（スライド作成：代表　四柳千夏子）

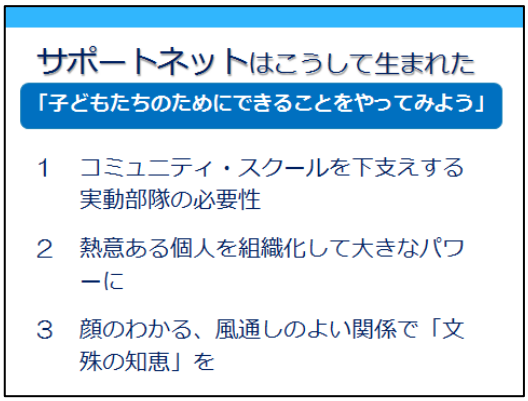


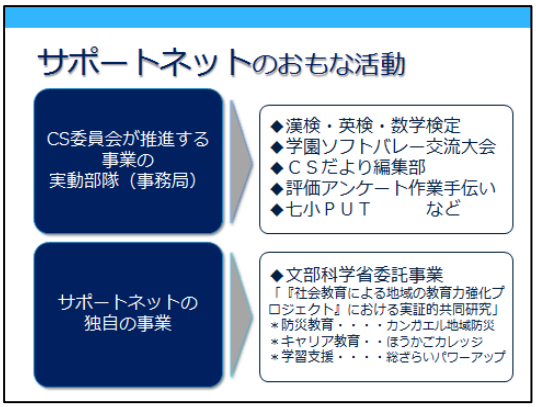




サポートネットスタッフのネットワーク

	現役保護者	ＰＴＡ役員	青少対	交通対	地域子どもク	その他	学校ボランティア	ＣＳ委員会
Ａさん		○	○		○	○	○	○
Ｂさん	○	○	○	○	○	○	○	○
Ｃさん	○	○		○	○		○	○
Ｄさん	○	○	○	○		○	○	○
Ｅさん	○	○	○	○	○	○		○
Ｆさん	○	○	○	○				
Ｇさん	○	○	○	○	○			○
Ｈさん		○			○		○	
Ｉさん	○	○			○		○	
Ｊさん	○	○		○			○	
Ｋさん	○	○	○		○		○	
Ｌさん	○	○	○		○		○	
Ｍさん		○			○		○	
Ｎさん		○			○		○	
Ｏさん	○			○	○		○	
Ｐさん	○	○		○				○





子どもたちの学びを見守る

子どもたちの学びを見守る

学習支援

- 「数学なんてこわくない！小学校算数の総ざらいパワーアップ」

  ⇒小学校の算数は小学校のうちにクリアし、
  自信を持って中学校へ進学してほしい。
  小学６年生対象：三小、七小とも全１４回
  スタディサポーター　のべ１２５名参加

- 七小ＰＵＴ（パワーアップタイム）事務局

  ⇒七小教員・ＣＳ委員会との連携
  年間２８回　参加児童のべ３９１名
  ボランティアのべ３９０名

子どもたちの学びを支える

子どもたちの学びを支える

コーディネート業務

- 四中２年総合的な学習「職業人と語る会」
- 三小２年生活科「心をつなごう」
- 七小２年生活科「七小のすてきをつたえよう」
- 三小４年総合的な学習「地域安全マップをつくろう」
- 七小３年総合的な学習「地域をまもろう」
- 三小５年総合的な学習「日本の文化に親しもう」
- 七小１年生活科「むかしのあそびをしよう」
- 三小６年総合的な学習「貿易ゲーム」
- 四中３年卒業記念特別授業「折句」
- 三小図書館事業「ようこそ三小図書館へ」

・ティーチャーズガイド作成

子どもたちの体験を支える

子どもたちの体験を支える

ほうかごカレッジ

「学校では教わらないけど、でも大切なこと」を主眼に、子ども向け、保護者向け講座を行う

ツボミスクール	(株)ワコール
ホップ★ステップ★ジャンプ	(株)ベネッセ
イカロスの誕生と航海	ＪＡＸＡ

子どもたちの命を守る

子どもたちの命を守る

防災教育

「子どもたちを守るために私たちにできること」

「カンガエル地域防災」防災テキストの作成
⇒Ｈ２５年度学園教育計画に！

「もしものときのハンドブックinみたかちゅうおう」の更新

防災教室inみたかちゅうおう
⇒３月１１日（月）６時間目　第四中学校３年に向けて
講師：三鷹市防災課　大倉　誠　課長

地域に生きる子どもたち

子どもたちの心に寄り添う

フツーのお母さんたちにできること